

薬用植物園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2019年
5月23日
第65号



クロタネソウ（キンポウゲ科）

第二圃場で花が見られます。カレーのスパイスで使用するニゲラ（ニオイクロタネソウの種子）の仲間、こちらは観賞用です。花色は青を基本に、白、紫、ピンクと豊富で、深く切れ込みのある葉と相まって個性ある姿をみせてくれます。果実は風船のようにふくらんで、中に黒い種子が出来るので、この名があります。栽培は10月ころ播種しますが、この時暗黒状態にしないと発芽しないので、よく覆土する必要があります。このように光を嫌う種子を嫌光性種子とよびます。ニオイクロタネソウと異なり、こちらはスパイスとしては使用せず、むしろアルカロイドのダマセニンが含まれているので、食用には向きません。ヨーロッパでは全草を乾燥させて枕に入れ、安眠を目的とする使い方があります。

ニオイシュロラン（キジカクシ科）

園内、育苗室横、フェンスよりに、南国ムードの特徴ある葉姿の間から、たくさんの白い複円錐状の白い花を付けた姿が目飛び込んできます。縁起のよい観葉植物で人気があり、いろいろの建物周りや飲食店でよく見かけられます。園芸的には「ドラセナ」とも呼ばれていますが、ニオイシュロランはセンネンボク属に属していて、ドラセナ属ではありません。ニュージーランドの固有種で、マオリ人は根茎を食用としたり、葉から繊維を取っていたそうです（見た目そんな感じです）。また、民間薬としては、葉の汁を傷薬として使用したり、煎じて下痢止めに使用していたそうです。

今、こんな草木が楽しめます！！